ニュース専修
●「専修大学」ホームページ●　http://www.senshu-u.ac.jp/
毎月1回15日発行
（定価一部90円）
発行所
専修大学広報課
〒101-8425
東京都千代田区
神田神保町3－8
☎03-3265-5819（直）

「社会知性」忘れずに 凛として道を歩もう

2011年度卒業式・学位記授与式

2011年度の専修大学卒業式・学位記授与式が3月22日、東京・千代田区の日本武道館で行われた。昨年は東日本大震災の影響により同館での開催は中止となったため2年ぶりの式典。学部卒業生、大学院修了生、専門職大学院（法科大学院）修了生あわせて4733人が晴れの日を迎えた。

学位記、川島記念賞が各総代に贈られたあと、日髙義博学長・理事長が式辞を述べた。朝倉篤裕さん（商学部・会計学科）は「専修大学での4年間は、先生方や仲間たちなど多くの人々と絆を深めることができた。社会に出ても、『つながり』を大切にし、さらに広げていきたい」と卒業生、修了生を代表して謝辞を述べた。

▶「絆を深めていきたい」と謝辞を述べる朝倉篤裕さん＝3月22日、日本武道館で

学長式辞

専修大学の歴史をバネに 社会の再建・復興に貢献を

日髙　義博

桜の開花が待たれるこの日本武道館で、平成23年度の卒業式および学位授与式を挙行できますことは、うれしい限りです。

昨年3月11日に発生した東日本大震災は、日本社会に深刻な被害をもたらしましたが、そんな状況の中で研さんを重ね、所定の学位を取得されたことに対し、心からお祝い申し上げます。

皆さんは、在学中、専修大学創立130年記念事業に何らかの形で参画したことと思います。神田キャンパスの黒門、生田キャンパスの創立130年記念館のアカデミーモールに据えられている、創立者の相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の4先生の胸像は、いずれもキャンパスに溶け込んだものとなっていますが、皆さんにとっても思い出深いモニュメントになることと思います。

また、専修大学創立130周年記念映画『学校をつくろう』を見ていて沸々と湧いてくる感動と専修人としての誇りは、自分の夢を大きく花開かせる上での原動力になりましょう。

130数年にわたる専修大学の歴史は、わが国の高等教育機関の発展の足跡を示しています。創立者たちは、明治維新の動乱の中を生き抜き、強靱な精神力を持って米国に長らく留学し、海外から祖国日本の国の形を考えました。そして、高等教育によって社会の屋台骨を支える有為な人材を育成しようという熱き思いを抱き、帰国後すみやかに「専修学校」をスタートさせました。

創立者たちの熱き思いと生き様は、関東大震災による校舎の崩壊、第二次世界大戦の戦禍など幾多の苦難にもめげず、専修人に営々と受け継がれ、本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」の中にも生きています。そして今、私たちは、東日本大震災後の地域社会の再建・復興という課題と共に、自然と人間共生のために価値観を洗い直すという課題を背負っています。

皆さん、明日の専修大学の歴史を作るのは自分たちだという気概をもって、学窓を飛び立ってください。そして、さまざまな分野において、東日本大震災後の社会の再建・復興に貢献していってください。幅広い活躍をなしうるのが我ら専修人の真骨頂です。

専修大学の21世紀ビジョンは、「社会知性の開発」です。このビジョンは、本学の創立の原点に立ち戻り、創立者たちの熱き思いを21世紀に花開かせるためには、何を為すべきかという観点から設定されたものです。

これまでの勉学で、自ら問題を発見し、それを主体的に解決する知力、すなわち「社会知性」を、皆さんはすでに身につけているはずです。自分の頭で考えて、自分で行動しうるならば、社会の開発につながっていきます。その際、人を説得し、人を動かすためには、豊かな人間性と確たる倫理観がなければなりません。常に自己を省察し、人格を磨いていくことを忘れてはなりません。

創立者の一人、田尻先生の「放而不逸」（放って逸せず）という揮毫が一昨年、大分で見つかりました。これは、「心を放って常軌を逸しない」という意味です。

また目賀田先生は、「礼節の軌道を離る可からず」という言葉を残されています。相馬先生にしろ、駒井先生にしろ、その生き方にサムライ・スピリッツが染みこんでいます。

利害や打算ではなく、信義や礼節を弁えて物事を処す生き方を専修人の先達たちは示しています。

私は「畏れず、怯まず、凛として生きる」を座右の銘として、専修大学の発展に向けて、第5世代の責務を果たす所存です。皆さん、学窓を飛び立った後、どのような分野に進もうとも、専修大学の130数年の歴史と伝統の重みをバネとして、凛として自分の一筋の道を歩いていってください。専修大学は、皆さんと生涯にわたり強い絆を持ち続けます。

（要旨）

主なニュース

定年退職される先生方のメッセージ……❸
川島記念学術賞・体育賞・奨励賞受賞者……❹
卒業式・学位記授与式写真特集……❺
最高の4年間！　卒業生・修了生インタビュー……❻❼
石巻専修大学　学位記授与式／川島記念学術賞受賞者／学生表彰……⓬
北海道短大　卒業式／川島記念学術賞・学長賞受賞者……⓭

地域復興への大学の挑戦～東日本大震災を乗り越えて～

復興拠点となった石巻専大・坂田学長らが活発に意見交換

▲　パネルディスカッションで坂田隆・石巻専修大学長、大矢根淳・専修大学教授（右から）ら

東日本大震災1周年を前にした3月3日、専修大学と毎日新聞社は専修大学神田キャンパスで「地域復興への大学の挑戦～東日本大震災を乗り越えて～」と題しシンポジウムを開催、活発な議論を130人が聴き入った。

◇

津波で多大な被害を受けた宮城県石巻市にあって、石巻専修大学は校舎が冠水を免れ、大きな被害を受けなかった。ライフラインが断たれた震災直後から被災者を受け入れ、学生、教職員が支援に力を尽くし、地域の災害対策拠点となった。5月にはすべての教育・研究活動を再開。坂田隆・石巻専修大学長は、これらの体験を基に基調講演を行い、地域とともに大学が目指す復興構想を明らかにした。

さらに同大学の山本憲一理工学部教授（自動車工学）が「津波による水没事故事例と対応」を、山崎泰央経営学部准教授（経営史）が「震災復興における大学の役割～3つの貢献と2つの支援」と題し事例報告を行った。

続いて「産官学連携による復興支援の可能性」をテーマにパネルディスカッションが展開され、坂田学長をはじめ▽大矢根淳・専修大学人間科学部教授▽板東久美子・文部科学省高等教育局長▽早川茂・トヨタ自動車常務役員▽岸井成格・毎日新聞社主筆▽城島徹・毎日新聞社編集編成局編集委員（コーディネーター）が意見交換を行った。

災害社会学の大矢根教授は「災害が起きる前に仮説を立て、対策を考える『事前復興』の重要さが言われている。防災とはまず、足元を見つめて生活改善をしていくことや地域との連携がスタートである。その上で過去の事例が生きてくる」と語り、地域社会での大学としての役割を問いかけた。

岸井主筆は「日本は、明治維新、戦後の混乱期に次ぐ、第3の転換期に来ており、どのように復興を遂げるか、世界中から注目されている。被災者の人々の姿やふるまいから、忘れかけている日本人としての精神性や伝統文化、歴史を問い直すことが、大学の新しい人材、さらには日本の再建の役割を考える際、重要になるのではないか」と締めくくった。

震災1周年で「祈念モニュメント」

▲　3月19日、石巻専修大学で行われた「祈念モニュメント」除幕式＝詳細は次号で

社会知性の開発をめざす
専修大学

Sの字は、専修大学の「S」と21世紀ビジョン「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」の「S」であり、そのSのブルーと曲線は大海原を表します。それが、地球に見立てた緑の球体を包み込んでいる様は、専修大学で「社会知性」を育んだ人材が世界に輩出され、大海原のように激しく変化する国際社会の波に乗り、世界で活躍する様を表現しています。また地球を表す球体は、大学のスクールカラーを使用しています。